2　あいち森と緑づくり事業アンケート結果＜県民アンケート＞

■調査のあらまし

1 調査の概要

（1）調査の目的

あいち森と緑づくり税・事業の事業評価のために、県内全域の一般県民に税・事業に対する認知度・理解度等を把握し、調査分析を行い、今後の税・事業の在り方について検討するための基礎資料とする。

（2）調査の項目

① 森と緑の働きについて

② 「あいち森と緑づくり税」について

③ 人工林整備事業について

④ 里山林整備事業について

⑤ 都市緑化推進事業について

⑥ 環境活動・学習事業について

⑦ 木の香る学校づくり推進事業について

⑧ 「あいち森と緑づくり事業」の今後について

（3）調査の設計

① 愛知県

② 調査対象　県内居住の20 歳以上の男女

③ 標本数　3,000 人

④ 抽出方法　層化二段無作為抽出法

⑤ 調査方法　郵送法

⑥ 調査期間　平成２４ 年８ 月２４ 日～９ 月１０ 日

（4）調査委託先

株式会社　ライフライン

（5）回収結果

① 標本数　3,000人

② 回収数　1,506人　（50.2%）

2　調査対象者の属性

【性別】

総数	男性	女性	無回答
1,506人	692人	780人	34人
100.0%	45.9%	51.8%	2.3%

【年齢】

20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	無回答
108人	195人	256人	288人	212人	411人	36人
7.2%	12.9%	17.0%	19.1%	14.1%	27.3%	2.4%

【居住地域】

名古屋地域	尾張地域	西三河地域	東三河地域	無回答
403人	594人	311人	161人	37人
26.8%	39.4%	20.7%	10.7%	2.4%

【職業】

自営業	農林漁業	26人	1.7%
	商工サービス業	77人	5.1%
	自由業	79人	5.2%
勤め人	管理職	91人	6.0%
	専門技術職	202人	13.4%
	事務職	170人	11.3%
	労務職	212人	14.1%
無職	家事専業	345人	22.9%
	学生	19人	1.3%
	その他	242人	16.1%
無回答		43人	2.9%

3 サンプルデザイン

（1）母集団　愛知県内に居住する20歳以上の男女

（2）標本数　3,000

（3）地点数　150

（4）抽出方法　層化二段無作為抽出法

ア 層化

愛知県内の市町村を、市（名古屋市は区）及び郡を単位として、16の調査地区にグループ化した（調査地区区分図のとおり）。さらに、各調査地区を名古屋市、その他の市と郡部（町村）の3つに分類し、それぞれを層とした。

イ 標本数の配分

各層に、その推定母集団数（平成23年10月1日現在の人口）の大きさにより、3,000の標本数を比例配分した。

ウ 抽出の方法

（ア）　第1次抽出単位となる調査地点として、平成22年国勢調査時に設定された調査区を使用した。

（イ）　各層における調査地点については、1次調査地点の標本数が20となるように算出し、各層内での調査地点が1地点の場合は単純無作為抽出法により抽出、2地点以上となる場合は、「層における調査地区数の合計」÷「層で抽出された調査地点数」＝「抽出間隔」を算出し、等間隔抽出法により抽出した。

（ウ）　各調査地点における対象者の抽出は、選挙人名簿により等間隔抽出法で抽出した。

調査地区区分図

地域	地区番号	地区名称	（市　（区）、郡）
名古屋地域	1	名古屋市東部地区	（千種区・東区・守山区・名東区）
	2	名古屋市南東部地区	（昭和区・瑞穂区・緑区・天白区）
	3	名古屋市北西部地区	（北区・西区・中村区・中区）
	4	名古屋市南西部地区	（熱田区・中川区・港区・南区）
尾張地域	5	海部津島地区	（津島市・愛西市・弥富市・あま市・海部郡）
	6	一宮地区	（一宮市・稲沢市）
	7	犬山江南地区	（犬山市・江南市・岩倉市・丹羽郡）
	8	春日井小牧地区	（春日井市・小牧市・清須市・北名古屋市・西春日井郡）
	9	尾張東部地区	（瀬戸市・尾張旭市・豊明市・日進市・愛知郡（現長久手市含む））
	10	知多地区	（半田市・常滑市・東海市・大府市・知多市・知多郡）
西三河地域	11	豊田加茂地区	（豊田市・みよし市）
	12	岡崎額田地区	（岡崎市・額田郡）
	13	衣浦東部幡豆地区	（碧南市・刈谷市・安城市・西尾市・知立市・高浜市）
東三河地域	14	東三河山間地区	（新城市・北設楽郡）
	15	蒲郡豊川地区	（豊川市・蒲郡市）
	16	豊橋地区	（豊橋市・田原市）

調査地区別標本・調査地点数一覧

		名古屋市	その他の市	郡部（町村）	計
名古屋地域	名古屋市東部地区	464,801 220 11			464,801 220 11
	名古屋市南東部地区	488,545 240 12			488,545 240 12
	名古屋市北西部地区	448,758 220 11			448,758 220 11
	名古屋市南西部地区	473,981 220 11			473,981 220 11
尾張地域	海部津島地区		208,585 100 5	56,793 40 2	265,378 140 7
	一宮地区		414,361 220 11		414,361 220 11
	犬山江南地区		179,477 100 5	44,610 40 2	224,087 140 7
	春日井小牧地区		482,106 240 12	11,607 0 0	493,713 240 12
	尾張東部地区		295,535 160 8	73,614 40 2	369,149 200 10
	知多地区		361,011 180 9	131,936 100 5	492,947 280 14
西三河地域	豊田加茂地区		381,026 180 9		381,026 180 9
	岡崎額田地区		297,196 140 7	30,112 20 1	327,308 160 8
	衣浦東部幡豆地区		536,104 240 12		536,104 240 12
東三河地域	東三河山間地区		40,609 20 1	9,342 0 0	49,951 20 1
	蒲郡豊川地区		211,931 120 6		211,931 120 6
	豊橋地区		353,575 160 8		353,575 160 8
計		1,876,085 900 45	3,761,516 1,860 93	358,014 240 12	5,995,615 3,000 150

上段：推定母集団
中段：標本数
下段：調査地点数

調査地点一覧

地点名				対象数
名古屋地域	名古屋市東部地区	名古屋市	千種区	20
		〃	〃	20
		〃	〃	20
		〃	東区	20
		〃	〃	20
		〃	守山区	20
		〃	〃	20
		〃	〃	20
		〃	名東区	20
		〃	〃	20
		〃	〃	20
	名古屋市南東部地区	名古屋市	昭和区	20
		〃	〃	20
		〃	瑞穂区	20
		〃	〃	20
		〃	緑区	20
		〃	〃	20
		〃	〃	20
		〃	〃	20
		〃	天白区	20
		〃	〃	20
		〃	〃	20
	名古屋市北西部地区	名古屋市	北区	20
		〃	〃	20
		〃	〃	20
		〃	西区	20
		〃	〃	20
		〃	〃	20
		〃	中村区	20
		〃	〃	20
		〃	〃	20
		〃	中区	20
		〃	〃	20
	名古屋市南西部地区	名古屋市	熱田区	20
		〃	中川区	20
		〃	〃	20
		〃	〃	20
		〃	〃	20
		〃	港区	20
		〃	〃	20
		〃	〃	20
		〃	南区	20
		〃	〃	20
		〃	〃	20

地点名				対象数
尾張地域	海部津島地区	津島市	古川町一丁目	20
		愛西市	日置町	20
		弥富市	鯏浦町	20
		あま市	木田道下	20
		〃	本郷	20
		海部郡	大治町大字堀之内	20
		〃	蟹江町字戸六丁目	20
	一宮地区	一宮市	大江一丁目	20
		〃	大浜二丁目	20
		〃	丹陽町	20
		〃	大和町	20
		〃	北方町	20
		〃	浅井町	20
		〃	開明	20
		稲沢市	大塚町	20
		〃	正明寺一丁目	20
		〃	長野二丁目	20
	犬山江南地区	犬山市	大字犬山	20
		〃	内田東町	20
		江南市	古知野町	20
		〃	前飛保町	20
		岩倉市	新柳町一丁目	20
		丹羽郡	大口町字北三丁目	20
		〃	扶桑町大字高木	20
	春日井小牧地区	春日井市	鳥居松町二丁目	20
		〃	篠木町三丁目	20
		〃	篠木町八丁目	20
		〃	春日井上ノ町	20
		〃	上ノ町一丁目	20
		〃	藤山台三丁目	20
		小牧市	元町二丁目	20
		〃	大字西之島	20
		〃	光ヶ丘一丁目	20
		清須市	土器野	20
		北名古屋市	鹿田	20
		〃	二子	20
	尾張東部地区	瀬戸市	北脇町	20
		〃	西山町一丁目	20
		〃	上之山町三丁目	20
		尾張旭市	西大道町	20
		〃	旭ヶ丘町	20
		豊明市	新田町	20
		日進市	東山二丁目	20
		〃	赤池三丁目	20
		愛知郡	長久手町(現長久手市)熊張	20
		〃	東郷町大字諸輪	20
	知多地区	半田市	雁宿町九丁目	20
		〃	花園町六丁目	20
		常滑市	千代ヶ丘三丁目	20
		東海市	大田町	20
		〃	富木島町	20
		大府市	桃山町五丁目	20
		〃	北崎町一丁目	20
		知多市	岡田	20
		〃	梅が丘一丁目	20
		知多郡	阿久比町大字矢高	20
		〃	東浦町大字緒川	20
		〃	南知多町大字豊浜	20
		〃	美浜町大字河和	20
		〃	武豊町字土穴	20

地点名				対象数
西三河地域	豊田加茂地区	豊田市	西町二丁目	20
		〃	丸町九丁目	20
		〃	宮上町二丁目	20
		〃	京ヶ峰一丁目	20
		〃	畝部東町	20
		〃	花園町	20
		〃	四郷町	20
		〃	井上町十三丁目	20
		みよし市	東山台	20
	岡崎額田地区	岡崎市	伝馬通テニ丁目	20
		〃	明大寺町	20
		〃	本宿町	20
		〃	福岡町	20
		〃	中園町	20
		〃	真福寺町	20
		〃	桜形町	20
		額田郡	幸田町大字大草	20
	衣浦東部幡豆地区	碧南市	幸町七丁目	20
		刈谷市	大手町一丁目	20
		〃	泉田町	20
		〃	小垣江町	20
		安城市	尼ノ木町	20
		〃	古井町	20
		〃	東端町	20
		西尾市	今川町	20
		〃	針曽根町	20
		〃	吉良町荻原	20
		〃	一色町字味浜	20
		知立市	池端二丁目	20
		高浜市	稗田町六丁目	20

地点名				対象数
東三河地域	東三河山間地区	新城市	市場台一丁目	20
	蒲郡豊川地区	豊川市	金屋橋町	20
		〃	高見町二丁目	20
		〃	平尾町	20
		〃	御津町	20
		蒲郡市	宮成町	20
		〃	竹谷町	20
	豊橋地区	豊橋市	東田町	20
		〃	氏設町	20
		〃	江島町	20
		〃	王ヶ崎町	20
		〃	牟呂公文町	20
		〃	多米中町二丁目	20
		〃	曙町	20
		〃	大崎町	20
		田原市	田原町	20

4 この報告書のみかた

- 回答率（%）は、小数第２位を四捨五入したため、合計が100%にならない場合がある。また、小計についても同様に異なる場合がある。
- 1人の対象者に複数の回答を認めたものについては、その項目を選んだ人が回答者全体に占める割合を表しており、通常その比率の合計は100%を超える。
- 調査結果については統計上多少の誤差（標本誤差）が生じることがあり、調査結果をみる場合には、次のような一定の幅をもたせてみる必要がある。
- 標本誤差は、次の式で算出される。

$$\text{標本誤差} = \pm 2\sqrt{2 \times \frac{P\ (100-P)}{N}}$$

P：回答率（%）
N：回答者数（人）

【標本誤差早見表（主なもの）】

		N：回答者数（人）	P：回答率（%） 5又は95	10又は90	15又は85	20又は80	25又は75	30又は70	35又は65	40又は60	45又は55	50
総数		1506	1.6	2.2	2.6	2.9	3.2	3.3	3.5	3.6	3.6	3.6
性別	男性	692	2.3	3.2	3.8	4.3	4.6	4.9	5.1	5.2	5.3	5.3
	女性	780	2.2	3.1	3.7	4.1	4.4	4.7	4.9	5.0	5.1	5.1
年齢別	20～29歳	108	6.0	8.0	10.0	11.0	11.5	12.0	13.0	13.0	14.0	14.0
	30～39歳	195	4.4	6.1	7.2	8.1	8.8	9.3	9.7	9.9	10.1	10.1
	40～49歳	256	3.9	5.3	6.3	7.0	7.6	8.0	8.4	8.6	8.7	8.8
	50～59歳	288	3.6	5.0	6.0	6.7	7.3	7.7	8.0	8.2	8.4	8.4
	60～64歳	212	4.2	5.8	6.9	7.8	8.4	8.9	9.3	9.5	9.7	9.7
	65歳以上	411	3.0	4.2	5.0	5.6	6.1	6.4	6.7	6.9	7.0	7.0
地域別	名古屋地域	403	3.1	4.2	5.0	5.6	6.1	6.5	6.7	6.9	7.0	7.1
	尾張地域	594	2.5	3.5	4.2	4.6	5.0	4.9	5.5	5.7	5.8	5.9
	西三河地域	311	3.5	4.8	5.7	6.4	6.9	7.3	7.6	7.8	8.0	8.0
	東三河地域	161	4.9	6.7	8.0	8.9	9.7	10.2	10.6	10.9	11.1	11.1
職業別	自営業	182	4.6	6.3	7.5	8.4	9.1	9.6	10.0	10.2	10.4	10.5
	勤め人	675	2.4	3.3	3.9	4.4	4.7	5.0	5.2	5.3	5.4	5.4
	無職	606	2.4	3.4	4.1	4.5	4.9	4.6	5.4	5.6	5.7	5.8

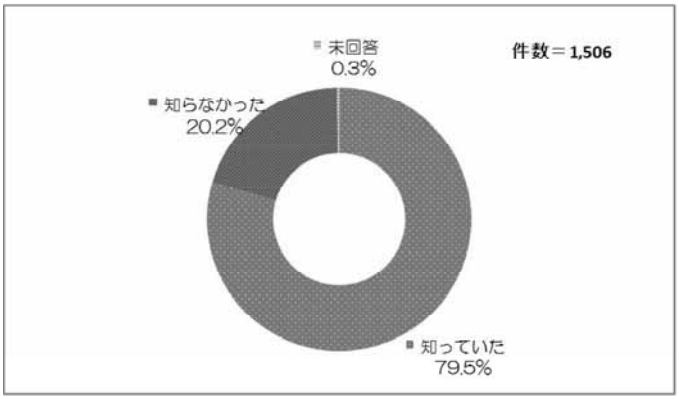
■調査結果

Ⅰ 森と緑の働きについて

（1） 森や緑の公益的機能の認知度

森と緑に公益的機能があることについて「知っていた」と答えた人は79.5%

問Ⅰ-1　森と緑は、災害の防止など様々な公益的機能により、私たちの暮らしを支えてくれています。あなたは、このことについて知っていましたか。（○は１つ）



森と緑には公益的機能があり、災害防止など私達の暮らしを支えていることを「知っている」と答えた人の割合が79.5%に対し、「知らなかった」と答えた人の割合は20.2%となっている。

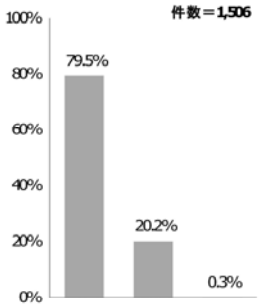
森や緑の公益的機能の認知度（性別、年齢別、地域別、職業別）

◆性別で見ると、「知っていた」と答えた人の割合は、男性（79.0%）と女性（79.6%）との差は少ない

◆年齢別で見ると、「知っていた」と答えた人の割合は、20歳～29歳では69.4%で、年齢層が上がるごとに割合が増える傾向にあり、65歳以上は85.6%となっている。

◆地域別で見ると、「知っていた」と答えた人の割合は、名古屋地域（81.9%）が高く、東三河地域（76.4%）が低く、5.5ポイントの差がある。

◆職業別で見ると、「知っていた」と答えた人の割合は、自営業（82.4%）が高く、勤め人（78.5%）が低い。

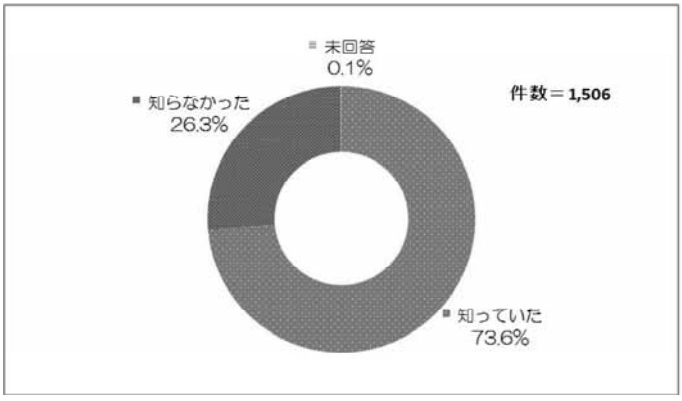


		知っていた	知らなかった	未回答
性別	男性	79.0%	20.4%	0.6%
	女性	79.6%	20.4%	0.0%
年齢別	20歳～29歳	69.4%	30.6%	0.0%
	30歳～39歳	73.3%	26.7%	0.0%
	40歳～49歳	72.3%	27.7%	0.0%
	50歳～59歳	78.8%	21.2%	0.0%
	60歳～64歳	86.8%	13.2%	0.0%
	65歳以上	85.6%	13.4%	1.0%
地域別	名古屋地域	81.9%	17.6%	0.5%
	尾張地域	78.6%	21.0%	0.3%
	西三河地域	79.4%	20.6%	0.0%
	東三河地域	76.4%	23.6%	0.0%
職業別	自営業	82.4%	17.6%	0.0%
	勤め人	78.5%	21.5%	0.0%
	無　職	79.5%	20.0%	0.5%

（2） 森や緑の公益的機能の変化に対する意識

森と緑の公益的機能が低下していくことについて「知っていた」と答えた人の割合は73.6%

問Ⅰ-2　近年、木材価格の低迷により、所有者による人工林の手入れが不足したり、都市の緑は開発などにより減少していったりして、森と緑の持つ様々な公益的機能がだんだん低下していってしまうことが心配されています。あなたは、このことを知っていましたか。（○は１つ）



木材価格の下落、あるいは都市の開発などが、森と緑の公益的機能の低下にまでつながっていることを「知っている」と答えた人の割合は73.6%ある。一方で「知らなかった」と答えた人の割合は26.3%である。

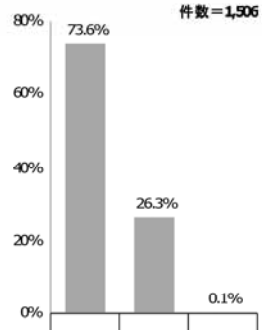
森や緑の公益的機能の変化に対する意識（性別、年齢別、地域別、職業別）

◆性別で見ると、「知っていた」と答えた人の割合は、男性（76.3%）が高く、女性（70.9%）が低く、5.4ポイントの差がある。

◆年齢別で見ると、年齢層が上がるごとに「知っていた」と答えた人の割合が高くなり、20代では「知らなかった」が51.9%に対し、「知っていた」が48.1%と少なく、回答が全体と比べて逆転している。

◆地域別で見ると、「知っていた」と答えた人の割合は、尾張地域（75.4%）が高く、東三河地域（68.9%）が低く、6.5ポイントの差がある。

◆職業別で見ると、「知っていた」と答えた人の割合は、無職（76.4%）が高く、勤め人（70.5%）が低い。

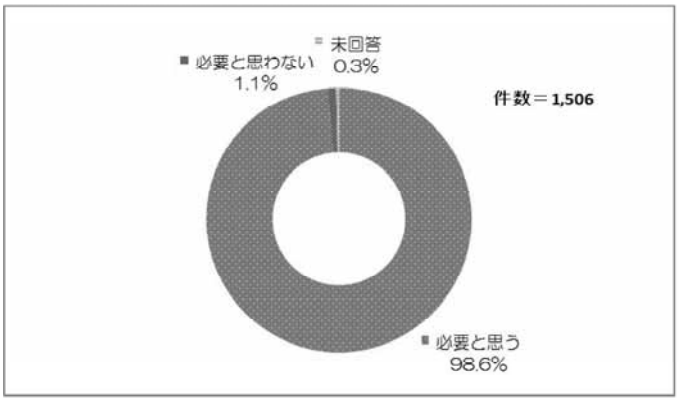


		知っていた	知らなかった	未回答
性別	男性	76.3%	23.7%	0.0%
	女性	70.9%	29.0%	0.1%
年齢別	20歳～29歳	48.1%	51.9%	0.0%
	30歳～39歳	57.9%	42.1%	0.5%
	40歳～49歳	66.0%	34.0%	0.0%
	50歳～59歳	76.7%	23.3%	0.0%
	60歳～64歳	82.5%	17.0%	0.5%
	65歳以上	84.9%	15.1%	0.0%
地域別	名古屋地域	72.7%	27.3%	0.0%
	尾張地域	75.4%	24.6%	0.0%
	西三河地域	73.0%	26.7%	0.3%
	東三河地域	68.9%	31.1%	0.0%
職業別	自営業	75.3%	24.2%	0.5%
	勤め人	70.5%	29.5%	0.0%
	無　職	76.4%	23.6%	0.0%

（3） 健全な森や緑を後世に引き継ぐことの必要性

健全な森や緑を後世に引き継ぐことについて「必要と思う」が98.6%

問Ⅰ-3　将来に向けて健全な森と緑を引き継いでいくことについて、必要と思いますか。（○は１つ）



将来に向けて健全な森と緑を後世に引き継いでいくことについて「必要と思う」と答えた人の割合は98.6%と非常に高くなっている。一方で「必要と思わない」と答えた人の割合は１１%とわずかである。

「必要と思わない」の理由としては、「所有者が行えばよい」、「自分の生活の方が大事」、「税金のムダ使いには反対」などがある。

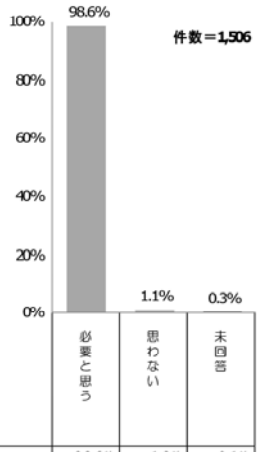
健全な森や緑を後世に引き継ぐことの必要性（性別、年齢別、地域別、職業別）

◆性別で見ると、「必要と思う」と答えた人の割合は、男性（98.6%）、女性（98.8%）で0.2ポイントと差は小さい。

◆年齢別で見ると、「必要と思う」と答えた人の割合は、何れの年齢層も高く、年齢層での差は小さい。

◆地域別で見ると、「必要と思う」と答えた人の割合は、西三河地域（99.4%）が高く、東三河地域（97.5%）が低く、1.9ポイントの差がある。

◆職業別で見ると、「必要と思う」と答えた人の割合は、自営業（99.5%）が高く、勤め人（98.5%）が低い。



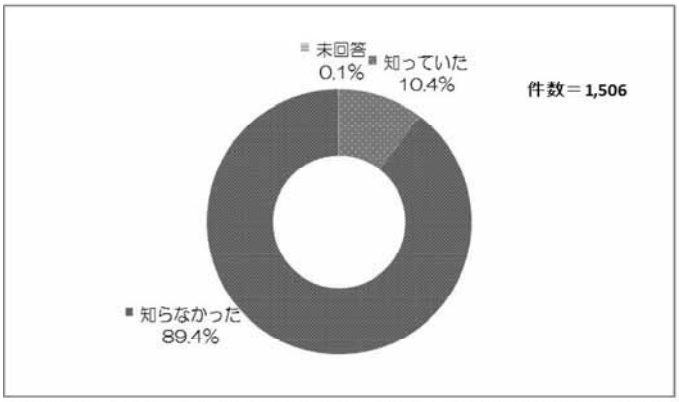
		必要と思う	思わない	未回答
性別	男性	98.6%	1.3%	0.1%
	女性	98.8%	0.8%	0.4%
年齢別	20歳～29歳	97.2%	0.9%	1.9%
	30歳～39歳	98.5%	1.0%	0.5%
	40歳～49歳	98.8%	1.2%	0.0%
	50歳～59歳	99.3%	0.7%	0.0%
	60歳～64歳	98.6%	1.4%	0.0%
	65歳以上	98.8%	1.0%	0.2%
地域別	名古屋地域	98.8%	1.2%	0.0%
	尾張地域	98.7%	1.0%	0.3%
	西三河地域	99.4%	0.3%	0.3%
	東三河地域	97.5%	1.9%	0.6%
職業別	自営業	99.5%	0.5%	0.0%
	勤め人	98.5%	1.2%	0.3%
	無　職	98.7%	1.0%	0.3%

Ⅱ 「あいち森と緑づくり税」について

（1） 「 あいち森と緑づくり税」の認知度

「あいち森と緑づくり税」について「知らなかった」が89.4%

問Ⅱ-1　このアンケート調査の前に「あいち森と緑づくり税」のことを知っていましたか。（○は１つ）



「あいち森と緑づくり税」のことを「知っていた」と答えた人は10.4%と低く、「知らなかった」と答えた人は89.4%と高くなっている。

※あいち森と緑づくり税とは、森や緑が持つ環境保全や災害防止などの様々な働きを高めるため、平成21年度から県民税均等割の額に一定額を上乗せして、御負担いただいているものです（個人年額500円加算、法人5%加算（年額1,000円～40,000円加算））。

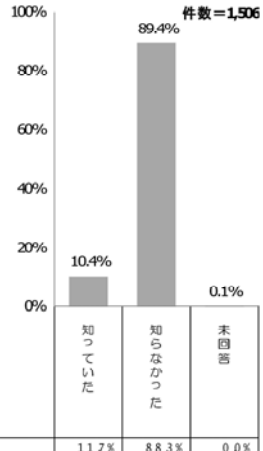
「 あいち森と緑づくり税」の認知度（性別、年齢別、地域別、職業別）

◆性別で見ると、「知っていた」と答えた人の割合は、男性（11.7%）女性（9.4%）と2.3ポイントの差がある。

◆年齢別で見ると、年齢層が上がるごとに「知っていた」と答えた人の割合が高くなり、65歳以上（16.3%）、次に60歳～64歳（10.8%）が高くなっている。

◆地域別で見ると、「知っていた」と答えた人の割合は、西三河地域（11.9%）が高く、名古屋地域（9.7%）が低く、2.2ポイントの差がある。

◆職業別で見ると、「知っていた」と答えた人の割合は、無職（12.2%）が高く、勤め人（9.2%）が低い。

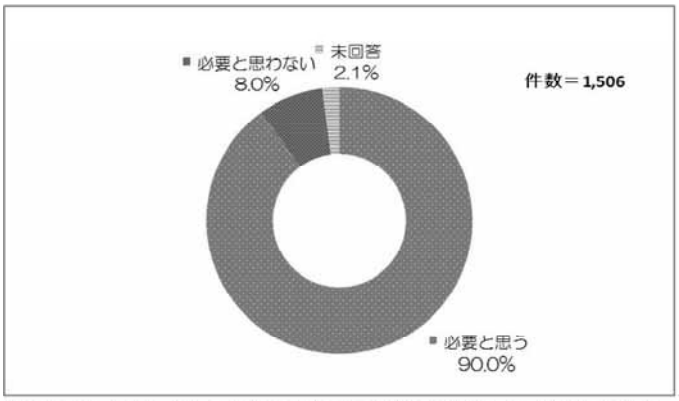


		知っていた	知らなかった	未回答
性別	男性	11.7%	88.3%	0.0%
	女性	9.4%	90.5%	0.1%
年齢別	20歳～29歳	2.8%	97.2%	0.0%
	30歳～39歳	7.7%	91.8%	0.5%
	40歳～49歳	9.4%	90.6%	0.0%
	50歳～59歳	7.6%	92.4%	0.0%
	60歳～64歳	10.8%	89.2%	0.0%
	65歳以上	16.3%	83.7%	0.0%
地域別	名古屋地域	9.7%	90.3%	0.0%
	尾張地域	10.4%	89.4%	0.2%
	西三河地域	11.9%	88.1%	0.0%
	東三河地域	10.6%	89.4%	0.0%
職業別	自営業	9.9%	90.1%	0.0%
	勤め人	9.2%	90.7%	0.1%
	無　職	12.2%	87.8%	0.0%

（2）「あいち森と緑づくり事業」の必要性

間伐や都市緑化などの取り組みを「必要と思う」が90.0%

問Ⅱ-2　「あいち森と緑づくり税」を使った間伐や都市緑化などの取り組みを必要と思いますか。
（○は１つ）



「あいち森と緑づくり税」を使った間伐や都市緑化などの取り組みを「必要と思う」と答えた人の割合は90.0%である。一方で「必要と思わない」と答えた人の割合は8.0%である。

「必要と思わない」の理由としては、「増税に反対」、「税金の使い道が不透明」、「税金ではなく別の方法で資金を作る」、「所有者が行うべき」などがある。

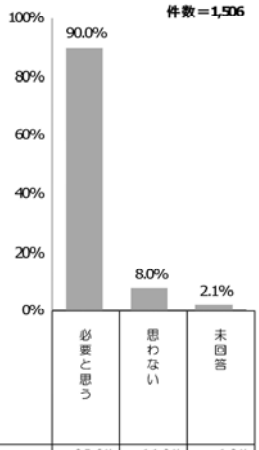
「あいち森と緑づくり事業」の必要性（性別、年齢別、地域別、職業別）

◆性別で見ると、「必要と思う」と答えた人の割合は、女性（92.3%）が高く、男性（87.6%）が低く、4.7ポイントの差がある。

◆年齢別で見ると、「必要と思う」と答えた人の割合は、20代（91.7%）が最も高く、次に60歳～64歳（92.0%）、65歳以上（92.0%）が高く、40代（87.9%）、50代（87.8%）が低い。

◆地域別で見ると、「必要と思う」と答えた人の割合は、東三河地域（92.5%）、西三河地域（92.0%）が高く、名古屋地域（81.9%）、尾張地域（81.9%）が低い。

◆職業別で見ると、「必要と思う」と答えた人の割合は、無職（91.1%）が高く、自営業（88.5%）が低くなっている。



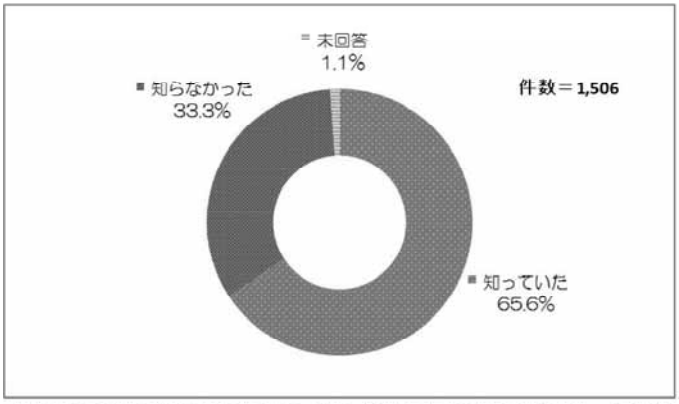
		必要と思う	思わない	未回答
性別	男性	87.6%	11.3%	1.2%
	女性	92.3%	4.9%	2.8%
年齢別	20歳～29歳	91.7%	7.4%	0.9%
	30歳～39歳	89.2%	9.2%	1.5%
	40歳～49歳	87.9%	9.0%	3.1%
	50歳～59歳	87.8%	9.7%	2.4%
	60歳～64歳	92.0%	7.1%	0.9%
	65歳以上	92.0%	5.8%	2.2%
地域別	名古屋地域	89.1%	8.9%	2.0%
	尾張地域	89.1%	8.4%	2.5%
	西三河地域	92.0%	5.8%	2.3%
	東三河地域	92.5%	7.5%	0.0%
職業別	自営業	88.5%	8.2%	3.3%
	勤め人	89.5%	8.6%	1.9%
	無　職	91.1%	7.1%	1.8%

Ⅲ　人工林整備事業について

（1）　人工林の間伐と公益的機能について

間伐は森林(人工林)の公益的機能を高めることを「知っていた」が65.6%

問Ⅲ-1　間伐は森林(人工林)の公益的機能を高めることを知っていましたか。（○は１つ）



間伐は森林の公益的機能を高めることを「知っていた」と答えた人の割合は65.6%である。一方で「知らなかった」と答えた人の割合は33.3%である。

※「人工林整備事業」とは、公益的機能を発揮させるため、手入れの遅れたスギ・ヒノキの人工林を間伐する事業。

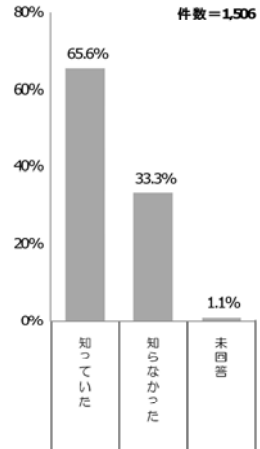
人工林の間伐と公益的機能について（性別、年齢別、地域別、職業別）

◆性別で見ると、「知っていた」と答えた人の割合は、男性（69.9%）が高く、女性（61.3%）が低く、8.6ポイントの差がある。

◆「知っていた」と答えた人の割合は、年齢層が上がるごとに増えており、60歳～64歳（75.9%）が高く、20代（40.7%）が低く、35.2ポイントの差がある。

◆地域別で見ると、「知っていた」と答えた人の割合は、名古屋地域（67.7%）、東三河地域（65.2%）が高く、尾張地域（64.5%）が低い。

◆職業別で見ると、「知っていた」と答えた人の割合は、自営業（68.1%）が高く、勤め人（64.4%）が低い。



		知っていた	知らなかった	未回答
性別	男性	69.9%	29.3%	0.7%
	女性	61.3%	37.4%	1.3%
年齢別	20歳～29歳	40.7%	59.3%	0.0%
	30歳～39歳	54.9%	45.1%	0.0%
	40歳～49歳	57.8%	41.8%	0.4%
	50歳～59歳	67.4%	31.3%	1.4%
	60歳～64歳	75.9%	23.6%	0.5%
	65歳以上	74.5%	23.4%	2.2%
地域別	名古屋地域	67.7%	31.0%	1.2%
	尾張地域	64.5%	34.2%	1.3%
	西三河地域	64.6%	34.7%	0.6%
	東三河地域	65.2%	34.8%	0.0%
職業別	自営業	68.1%	30.2%	1.6%
	勤め人	64.4%	35.0%	0.6%
	無　職	65.8%	33.0%	1.2%